

## 小規模多機能型居宅介護

# 通い、訪問、宿泊柔軟に

地域密着型の介護サービスとして2006年に登場した小規模多機能型居宅介護。事業所への「通い」を中心にしながら、スタッフによる「訪問」、事業所での「宿泊」を組み合わせて利用できるのが特徴だ。選ぶ際は、希望する組み合わせなどに、どの程度柔軟に対応してもらえるか確認したい。



「小規模多機能」は、住み慣れた地域で暮らし続けたいという高齢者や家族に伝えるため、06年の介護保険法改正で登場した。「施設が在宅か」という二者択一でなく、顔なじみのスタッフに必要に応じて双方のサービスを受けられる利点がある。福祉医療機構の「WAM NET(ワムネット)」によると今年8月現在の事業所数は2594か所。民家を改修したケースが多い。

「急な宿泊利用にも対応してもらえる。家族が増えたような心強さがある」と話す。「通い」「訪問」「宿泊」などについて、一定期間の大まかなスケジュールは立てるが、変更には柔軟に対応する。

小規模多機能の利用料金は定額制。同ハウスの場合、介護保険の自己負担額は要介護1で月額約1万2000円、要介護5で同約3万円。定額制なので訪問介護などを何度利用しても料金

◆小規模多機能型居宅介護の利用例(ユアハウス弥生のパンフレットを基に作成)

	9:00	12:00	15:00	18:00	21:00
日		来所	帰宅		
月		家族と一緒に来所	帰宅		
火		訪問介護を受け、スタッフの車で来所	帰宅		
水		終日、家族と一緒に自宅で過ごす			
木		スタッフの車で来所	帰りたくないので宿泊に予定変更	→	
金	→	帰宅後、そのまま訪問介護を受ける			
土		来所	帰宅		



「ユアハウス弥生」で過すお年寄り。日中は近所の喫茶店に出掛けたりする(とても多い)(東京都文京区)

## 事業所で対応に差

は変わらない。このほかに、朝食400円、昼食・夕食各600円、1泊2800円などが利用に応じて必要になる。

- ◆小規模多機能型居宅介護の事業所選びのポイント
- ・事業所が生活圏の中にあるか。片道30分以上かかると自宅との行き来が頻繁にくくなる
- ・「宿泊」や「訪問」にすぐに対応してもらえるか
- ・すでに利用している人の男女の比率、年齢層などは自分に合っているか
- ・宿泊利用料金はいくらか。地域差も大きく数百円から8000円程度まで開きがある
- ・囲碁クラブといった趣味の活動の送迎などにも対応してもらえるか

(山越さんの話を基に作成)

全国小規模多機能型居宅介護事業者連絡会の事務局長、山越孝浩さんによると、事業所によって対応の柔軟さには差もあり、雰囲気も違う。「利用の前に実際に訪ねて確かめてほしい」と話す。

全体の利用登録定員は25人だが、日中の「通い」は15人、1日の「宿泊」は9人までと厚生労働省令で定められている。同時にサービスを受けられる人数には上限がある。

山越さんは「利用者がサービスの『量』ばかりを求めると、十分な対応ができなくなるおそれがある。柔軟な利用を維持するため、必要とするサービスを事業者とよく相談してほしい」と話している。

## こどもの詩

雲  
 国語の時間  
 青空に雲がういていた  
 ハンバーグが流れてきて  
 そのとなりにオムレツも来た  
 ずっと見ていたら  
 お腹がグーッといった  
 (茨城県東海村・照沼小5年)

雲のかたちって、そのときの自分次第で、何にでも見えてしまう。おなかがいっぱいときには、雲は何に見えるだろう。(長田 弘)